

# 第40回日本神経内分泌学会学術集会

2013年10月25日（金曜日）～26日（土曜日）

宮崎市民プラザ

“inspire a generation”

日本の神経内分泌学のレガシーを次世代へ

# 第40回日本神経内分泌学会学術集会

## 講演プログラム

## 第40回日本神経内分泌学会学術集会プログラム

【10月25日(金)】

7:50~8:00 開会挨拶 第2会場(4F ギャラリー1)

8:00~10:00 若手研究奨励賞審査口演 第2会場(4F ギャラリー1)  
座長：伊達 紫(宮崎大学)

Y-1 視床下部で見つけた新規神経ペプチド前駆体遺伝子のラットの成長と脂肪蓄積に対する影響  
谷内秀輔、鹿野健史朗、近藤邦裕、別所裕紀、前嶋翔、益田恵子、古満芽久美、岩越栄子、  
浮穴和義  
広島大学大学院総合科学研究科脳科学分野

Y-2 視床下部領域に新たに同定されたペリニューロナルネット陽性細胞を含む神経核について  
堀井謹子、笹川誉世、橋本隆、西真弓  
奈良県立医科大学 第一解剖

Y-3 吸入麻酔薬Sevofluraneによる概日リズムへの影響はGABA受容体を介する  
松尾いづみ<sup>1,2</sup>、飯島典生<sup>1</sup>、相川優子<sup>1</sup>、肥後心平<sup>1</sup>、坂本篤裕<sup>2</sup>、小澤一史<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>日本医科大学 大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野、  
<sup>2</sup>日本医科大学 大学院医学研究科 疼痛制御麻酔科学分野

Y-4 Neural expression of the Huntingtin-associated protein 1 in the hippocampus,  
with special reference to the relationship with of steroid receptors, GABA and  
progenitor cell markers  
Md. Nabiul Islam, Ryutaro Fujinaga, Akie Yanai, Mir Rubayet Jahan, Keiji Kokubu,  
Keita Murakawa and Koh Shinoda  
Division of Neuroanatomy, Department of Neuroscience, Yamaguchi University Graduate School  
of Medicine

Y-5 ES細胞由来AVP細胞培養系におけるRab3a、Rabphilin3a、SNAP25のAVP分泌への関与  
清田篤志<sup>1</sup>、相村益久<sup>1</sup>、竹内誠治<sup>1</sup>、中島孝太郎<sup>1</sup>、小川晃一郎<sup>1</sup>、泉田久和<sup>1</sup>、落合啓史<sup>1</sup>、  
藤沢治樹<sup>1</sup>、高木博史<sup>1</sup>、須賀英隆<sup>1</sup>、渡辺崇<sup>2</sup>、長崎弘<sup>3</sup>、有馬寛<sup>1</sup>、大磯ユタカ<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学、  
<sup>2</sup>名古屋大学大学院医学系研究科 神経情報薬理学、<sup>3</sup>藤田保健衛生大学 生理学 I

Y-6 性周期による雌ラット海馬の神経シナプス・女性ホルモン・遺伝子発現の変動

棟朝亜理紗<sup>1</sup>、北條泰嗣<sup>1,2</sup>、肥後心平<sup>1</sup>、木本哲也<sup>1,2</sup>、川戸佳<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup>東大・総合文化・広域科学、<sup>2</sup>BIRD, JST

座長：大塚文男(岡山大学)

Y-7 SOCS2遺伝子変異により引き起こされた巨人症

隅田健太郎、松本隆作、福岡秀規、井口元三、坂東弘教、西沢衡、高橋路子、高橋裕

神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学

Y-8 オクトレオチド徐放性製剤による先端巨大症の長期治療—用量・投与間隔の調整について—

中尾佳奈子<sup>1</sup>、中谷理恵子<sup>1</sup>、植田洋平<sup>1</sup>、垣田真以子<sup>1</sup>、立木美香<sup>1</sup>、白井健<sup>2</sup>、田上哲也<sup>1,2</sup>、

成瀬光栄<sup>2</sup>、島津章<sup>2</sup>

<sup>1</sup>国立病院機構京都医療センター内分泌代謝内科、<sup>2</sup>同 臨床研究センター

Y-9 思春期での内側扁桃体エストロゲン受容体アルファの欠損が成体期雄マウスの社会行動の発現に及ぼす影響

佐野一広<sup>1</sup>、セルゲイ・ムサトフ<sup>2</sup>、仲田真理子<sup>1,3</sup>、坂本敏郎<sup>4</sup>、小川園子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>筑波大学行動神経内分泌学研究室、<sup>2</sup>コーネル大学医学部、

<sup>3</sup>日本学術振興会(DC2)、<sup>4</sup>京都橘大学健康科学部心理学科

Y-10 新規ラットC末端欠損型エストロゲン受容体 $\alpha$ 変異体の同定と機能解析

服部裕次郎<sup>1,2</sup>、石井寛高<sup>1</sup>、森田明夫<sup>2</sup>、小澤一史<sup>1</sup>

<sup>1</sup>日本医科大学 大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野、

<sup>2</sup>日本医科大学 大学院医学研究科 脳神経外科学分野

Y-11 扁桃体内側核におけるエストロゲン受容体 $\beta$ の部位特異的ノックダウンが雄マウスの社会行動に及ぼす影響

仲田真理子<sup>1,2</sup>、佐野一広<sup>1</sup>、セルゲイ・ムサトフ<sup>3</sup>、小川園子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>筑波大学行動神経内分泌学研究室、<sup>2</sup>日本学術振興会(DC2)、<sup>3</sup>コーネル大学・医学部

Y-12 長期高アンドロゲン暴露により誘発した多嚢胞性卵巣症候群モデルラットの脳内キスペプチン発現および黄体形成ホルモン分泌に関する研究

岩田衣世、國村有弓、松本恵介、小澤一史

日本医科大学 大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野

10：00～11：00 THE YEARシリーズ

第2会場(4F ギャラリー1)

座長：岩崎泰正(高知大学)

最近の神経内分泌領域における基礎研究論文の動向

上田陽一(産業医科大学医学部 第1生理学)

Year in Clinical Endocrinology 2012-2013

高野幸路(東京大学 腎臓・内分泌内科)

12：00～12：50 Meet the expert (ランチョンセミナー1) 第2会場(4F ギャラリー1)

座長：中里雅光(宮崎大学)

「Translational Scienceと臨床応用—日本から世界へ」

中尾一和(京都大学医学研究科 メディカルイノベーションセンター)

「基礎研究者の立場から：新規ペプチドの探索」

寒川賢治(国立循環器病研究センター研究所)

13：05～13：55 特別講演

第1会場(1F オルブライトホール)

座長：吉国通庸(九州大学)

「次世代プロテオミクスが拓く医学生物学の新天地：90年来の謎を解く」

中山敬一(九州大学・生体防御医学研究所・ヒトプロテオーム研究センター)

13：55～14：45 評議員会・総会・理事長提言

第1会場(1F オルブライトホール)

14：45～15：35 特別功労賞・学会賞・川上賞授賞式および川上賞受賞記念講演

第1会場(1F オルブライトホール)

17:00～19:00 合同シンポジウム

第1会場(1F オルブライトホール)

座長：井樋慶一(東北大学)

兵藤 晋(東京大学)

「ニューロメジンSとその関連ペプチドの生理作用について」

村上昇(宮崎大学農学部 獣医生理学研究室)

「神経ペプチドPACAPの多彩な機能について」

塩田清二(昭和大学医学部 顕微解剖学)

「水を作ることの大切さ:サバクネズミから学んだこと」

竹井祥郎(東京大学海洋研究所 海洋生命科学部門 生理学分野)

「魚類におけるセシウムの動態を探る」

金子豊二(東京大学大学院 農学生命科学研究科 水族生理学研究室)

【10月26日(土)】

8：10～10：10 モーニングセミナー

第2会場(4F ギャラリー1)

座長：沖 隆(浜松医科大学)

山口秀樹(宮崎大学)

「今からでも遅くない！採択されるための科研費申請書の提出直前チェック」

児島将康(久留米大学 分子生命科学研究所)

「遺伝子改変マウスを用いたシナプス可塑性の分子メカニズムの解析」

高宮考悟(宮崎大学医学部医学科 機能制御学講座統合生理学分野)

「実践的な下垂体機能低下症の診断と治療」

小野昌美(東京女子医科大学 高血圧・内分泌内科)

「Japanese Doctors' English Presentations; A Pathology, Diagnosis, and Suggested Treatments」

Michael Guest(University of Miyazaki)

10：10～11：40 とことん神経内分泌

第2会場(4F ギャラリー1)

座長：鳥津 章(京都医療センター)

蔭山和則(弘前大学)

「生体組織からの新規生理活性ペプチドの探索の実際」

宮里幹也(国立循環器病研究センター研究所 生化学部)

「内分泌機能検査のパールとピットフォール」

高橋裕(神戸大学大学院医学研究科 糖尿病内分泌内科学)

「間脳下垂体腫瘍の外科的治療」

松野彰(帝京大学ちば総合医療センター 脳神経外科)

11：55～12：45 ランチョンセミナー2

第2会場(4F ギャラリー1)

座長：大磯ユタカ(名古屋大学)

「先端巨大症の病態と薬物治療」

松野彰(帝京大学ちば総合医療センター 脳神経外科)

13：00～13：50 特別講演

第2会場(4F ギャラリー1)

座長：中里雅光(宮崎大学)

「Klothoが紡いだ生命の糸を解きほぐす」

鍋島陽一(公益財団法人 先端医療振興財団 先端医療センター)

13：50～15：20 女性研究者セッション 「留学の魅力を語る」

第2会場(4F ギャラリー1)

座長：西 真弓(奈良県立医科大学)

前多敬一郎(東京大学)

「私の“VIVE HODIE”な研究生生活」

花田礼子(京都大学・大学院医学研究科、メディカルイノベーションセンター  
TKプロジェクト)

「研究のメッカ・ボストンでのIZAYOIな研究生生活から受けた恩恵」

田口明子(宮崎大学医学部 内科学講座 神経呼吸内分泌代謝学分野)

「小児内分泌学—成長と成熟の不思議と面白さ」

堀川玲子(国立成育医療研究センター 内分泌代謝科)



15：30～17：00 sun-rising starシンポジウム

第2会場(4F ギャラリー1)

座長：有馬 寛(名古屋大学)

浮穴和義(広島大学)

「松果体におけるニューロステロイドの生合成と生理作用」

原口省吾(早稲田大学 教育・総合科学学術院、東京学芸大学 教育学部)

「脊椎動物の季節繁殖の制御機構：比較内分泌のすすめ」

吉村崇(名古屋大学)

「マウスES細胞から視床下部・下垂体への分化と、ヒト細胞への応用」

須賀英隆(名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科)

「迷走神経を介したグレリンとGLP-1の摂食調節連関」

十枝内厚次(宮崎大学医学部 神経呼吸内分泌代謝内科)

17：00～17：10 若手研究奨励賞・若手研究助成金表彰式・閉会挨拶

第2会場(4F ギャラリー1)

【10月25日(金)】

8:00~8:45 一般演題「臨床・病態モデル①」

第3会場(4F 大会議室)

座長：栗林忠信(古賀総合病院)

### 1 特徴的な画像所見を呈した下垂体悪性リンパ腫の3例

清水浩一郎<sup>1</sup>、米川忠人<sup>1</sup>、海老原枝美<sup>1</sup>、坪内千佳子<sup>1</sup>、柴田博絵<sup>1</sup>、松尾崇<sup>2</sup>、山口秀樹<sup>1</sup>、丸塚浩助<sup>3</sup>、上原久生<sup>4</sup>、竹島秀雄<sup>4</sup>、中里雅光<sup>1</sup>

<sup>1</sup>宮崎大学医学部 神経呼吸内分泌代謝内科、<sup>2</sup>藤元上町病院 内科、<sup>3</sup>宮崎大学医学部 病理部、<sup>4</sup>宮崎大学医学部 脳神経外科

### 2 嚢胞性下垂体腺腫によるクッシング病の1例

中山修一<sup>1</sup>、西山充<sup>1</sup>、岡崎瑞穂<sup>1</sup>、次田誠<sup>1</sup>、田口崇文<sup>1</sup>、岩崎泰正<sup>2</sup>、福原紀章<sup>3</sup>、西岡宏<sup>3</sup>、山田正三<sup>3</sup>、井下尚子<sup>4</sup>、寺田典生<sup>1</sup>

<sup>1</sup>高知大学医学部 内分泌代謝・腎臓内科、<sup>2</sup>高知大学 保健管理センター、<sup>3</sup>虎の門病院 間脳下垂体外科、<sup>4</sup>虎の門病院 病理部

### 3 原発無月経のために受診した下垂体プロラクチノーマの1例

山口昌俊、鮫島浩

宮崎大学医学部産婦人科

### 4 異型腺腫から下垂体癌への進展を観察し得たプロラクチノーマの1例

桑原智子<sup>1,2</sup>、山田正三<sup>3</sup>、佐藤健吾<sup>4</sup>、青木友和<sup>5</sup>、臼井健<sup>1</sup>、田上哲也<sup>1</sup>、成瀬光栄<sup>1</sup>、島津章<sup>1</sup>

<sup>1</sup>国立病院機構京都医療センター 臨床研究センター、

<sup>2</sup>京都大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科、<sup>3</sup>虎の門病院 間脳下垂体外科、

<sup>4</sup>日本赤十字医療センター、<sup>5</sup>京都医療センター 脳神経外科

### 5 当院における先端巨大症患者に対するオクトレオチドLARの長期治療成績に関する検討

大川雄太、柿沢圭亮、大石敏弘、芝田尚子、飯野和美、沖隆

浜松医科大学第二内科

8:45~9:39 一般演題「臨床・病態モデル②」 第3会場(4F 大会議室)

座長：杉原 仁(日本医科大学)

## 6 変異JunDによる膵神経内分泌腫瘍発症機構の解明:膵β細胞特異的変異JunDトランスジェニックマウスの作製と解析

小澤厚志、渡邊琢也、岡村孝志、田口亮、吉野聡、中島康代、登丸琢也、石井角保、渋沢信行、橋本貢士、岡田秀一、佐藤哲郎、森昌朋、山田正信

群馬大学大学院医学系研究科 病態制御内科学

## 7 慢性低ナトリウム血症はラットにおいて歩行障害を惹起する

藤沢治樹<sup>1</sup>、梶村益久<sup>1</sup>、溝口博之<sup>2</sup>、高木博史<sup>1</sup>、泉田久和<sup>1</sup>、中島孝太郎<sup>1</sup>、小川晃一郎<sup>1</sup>、竹内誠治<sup>1</sup>、落合啓史<sup>1</sup>、清田篤志<sup>1</sup>、須賀英隆<sup>1</sup>、竹内英之<sup>2</sup>、有馬寛<sup>1</sup>、村田善晴<sup>2</sup>、大磯ユタカ<sup>1</sup>

<sup>1</sup>名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学、

<sup>2</sup>名古屋大学 環境医学研究所

## 8 多発性内分泌腫瘍症1型(MEN1)モデルマウスに発症する膵内分泌腫瘍を用いたマイクロアレイ解析

渡邊琢也、小澤厚志、岡村孝志、田口亮、土岐明子、吉野聡、中島康代、登丸琢也、石井角保、渋沢信行、岡田秀一、森昌朋、佐藤哲郎、山田正信

群馬大学大学院医学系研究科 病態制御内科学

## 9 異所性ACTH症候群及びCushing病におけるGHRP試験の有用性について

武市奈緒美、杉原仁、高野綾子、長峯朋子、周東佑樹、篠田恵、佐藤友紀、若栗稔子、長尾元嗣、竹光秀司、原田太郎、稲垣恭子、田村秀樹、及川眞一

日本医科大学大学院医学研究科 内分泌糖尿病代謝内科学分野

## 10 多発肝転移を伴う肺原発神経内分泌腫瘍による異所性ACTH産生腫瘍に対するエペロリムスの治療効果

臼井健<sup>4</sup>、垣田真以子<sup>1</sup>、難波多挙<sup>1</sup>、村田敬<sup>2</sup>、安井久晃<sup>3</sup>、植田洋平<sup>1</sup>、中谷理恵子<sup>1</sup>、中尾佳奈子<sup>1</sup>、立木美香<sup>1</sup>、田上哲也<sup>1</sup>、成瀬光栄<sup>4</sup>、島津章<sup>4</sup>

<sup>1</sup>国立病院機構 京都医療センター 内分泌・代謝内科、<sup>2</sup>同 糖尿病センター、<sup>3</sup>同 腫瘍内科、

<sup>4</sup>同 臨床研究センター

11 中枢神経系胚細胞腫瘍(CNSGCT)の予後良好群と中間群の再発症例における早期診断の重要性について

米川忠人<sup>1</sup>、山口秀樹<sup>1</sup>、片上秀喜<sup>2</sup>、中里雅光<sup>1</sup>

<sup>1</sup>宮崎大学 神経呼吸内分泌代謝内科、<sup>2</sup>帝京大学 ちば総合医療センター 内科臨床研究部

11:00~11:45 一般演題「生殖・キスペプチン①」 第2会場(4F ギャラリー1)

座長：河田光博(京都府立医科大学)

12 GT1-7細胞におけるアセチルコリン受容体の発現解析

荒井勇樹<sup>1,2</sup>、石井寛高<sup>2</sup>、小林牧人<sup>1</sup>、小澤一史<sup>2</sup>

<sup>1</sup>国際基督教大学アーツ・サイエンス学科生命科学教室、

<sup>2</sup>日本医科大学大学院医学研究科解剖学・神経生物学分野

13 エストロジェン長期投与による下垂体プロラクチン産生腫瘍の誘発に関するラット系統差：insulin-like growth factor-1 (IGF-1)の関与

三井哲雄、石田真帆、有田順

山梨大学大学院医学工学総合研究部生理学講座第1

14 ゴナドトロフにおけるゴナドトロピン分泌へのアネキシンA5の関与

汾陽光盛、小野寺桃子、米澤智洋、久留主志朗

北里大学 獣医生理学研究室

15 BMP-6とSomatostatin作用によるGonadotropin分泌調節の検討

当真貴志雄<sup>1</sup>、大塚文男<sup>2</sup>、寺坂友博<sup>1,2</sup>、塚本尚子<sup>1</sup>、中村絵里<sup>1</sup>、越智可奈子<sup>1</sup>、稲垣兼一<sup>1</sup>、槇野博史<sup>1</sup>

<sup>1</sup>岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学、

<sup>2</sup>岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 総合内科学

16 雄の性行動は脊髄GRPニューロンにおけるpERK発現を誘起する

越智拓海、佐藤慧太、坂本竜哉、坂本浩隆

岡山大学・理・臨海実験所/共同利用拠点 (UMI)

11:00~11:45 一般演題「グレリン・摂食調節①」 第3会場(4F 大会議室)

座長：鈴木(堀田)眞理(政策研究大学院大学)

### 17 NERP-2のオレキシン系を介したエネルギー代謝調節

十枝内厚次<sup>1</sup>、山口秀樹<sup>1</sup>、佐々木一樹<sup>2</sup>、影山晴秋<sup>3</sup>、塩田清二<sup>3</sup>、南野直人<sup>2</sup>、中里雅光<sup>1</sup>

<sup>1</sup>宮崎大学医学部神経呼吸内分泌代謝内科、<sup>2</sup>国立循環器病研究センター研究所分子薬理部、

<sup>3</sup>昭和大学医学部解剖学講座

### 18 Hypothalamic Anorexigenic Effect of Clusterin (Apolipoprotein J)

Cherl Namkoong<sup>1,2</sup>, Gil-So Young<sup>1</sup>, Pil-Gum Jang<sup>1</sup>, Byung-Soo Yoon<sup>4</sup>, Joo-Yong Lee<sup>1</sup>, In-Kyu Lee<sup>5</sup>,  
Hyun-Kyung Kim<sup>1</sup>, Gil Myung Kang<sup>1</sup>, Young-Bum Kim<sup>1</sup>, Masamitsu Nakazato<sup>2</sup>, Min-Seon Kim<sup>3</sup>

<sup>1</sup>Asan Institute for Life Sciences, University of Ulsan College of Medicine,

<sup>2</sup>Neurology, Respiriology, Endocrinology, and Metabolism, Division of Internal Medicine, Faculty of Medicine, University of Miyazaki,

<sup>3</sup>Department of Internal Medicine, University of Ulsan College of Medicine,

<sup>4</sup>AdipoGen Inc.,

<sup>5</sup>Division of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Department of Medicine, Beth Israel Deaconess Medical Center and Harvard Medical School

### 19 脱水誘発性摂食抑制反応に対するNesfatin-1/NucB2の役割

吉村充弘<sup>1</sup>、松浦孝紀<sup>1</sup>、大久保淳一<sup>1</sup>、丸山崇<sup>1</sup>、橋本弘史<sup>1</sup>、加隈哲也<sup>2</sup>、吉松博信<sup>2</sup>、森昌朋<sup>3</sup>、  
上田陽一<sup>1</sup>

<sup>1</sup>産業医科大学 医学部 第1生理学、<sup>2</sup>大分大学 医学部 総合内科学第一講座、

<sup>3</sup>北関東肥満代謝研究所

### 20 摂食抑制因子ネスファチン1と細胞増殖

岡田秀一<sup>1</sup>、佐藤哲郎<sup>1</sup>、山田正信<sup>2</sup>

<sup>1</sup>群馬大学医学部附属病院 内分泌糖尿病内科、<sup>2</sup>群馬大学大学院医学系研究科 病態制御内科

### 21 哺乳類と魚類におけるデカン酸修飾型グレリン免疫活性量の比較

西芳寛<sup>1</sup>、御船弘治<sup>2</sup>、海谷啓之<sup>3</sup>、細田洋司<sup>3</sup>、平田留美子<sup>1</sup>、佐藤元康<sup>4</sup>、杉本博之<sup>4</sup>、田中永一郎<sup>1</sup>、  
寒川賢治<sup>3</sup>、児島将康<sup>5</sup>

<sup>1</sup>久留米大学医学部・生理学、<sup>2</sup>同・動物実験センター、

<sup>3</sup>国立循環器病研究センター研究所、<sup>4</sup>獨協医科大学・生化学、<sup>5</sup>久留米大学・分子生命科学研究所

15：40～16：34 一般演題「グレリン・摂食調節②」

第2会場(4F ギャラリー1)

座長：小澤一史(日本医科大学)

22 ニューロペプチドW(NPW)のCRHニューロンを介した抗肥満作用の機能形態学的研究

竹ノ谷文子<sup>1,2</sup>、平子哲史<sup>1</sup>、太田英司<sup>1</sup>、和田亘弘<sup>1</sup>、影山晴秋<sup>3</sup>、上田陽一<sup>4</sup>、橋本弘史<sup>4</sup>、塩田清二<sup>1</sup>

<sup>1</sup>昭和大学顕微解剖学、<sup>2</sup>星薬科大学運動生理学、<sup>3</sup>桐生大学栄養学科、<sup>4</sup>産業医科大学第一生理学

23 Interaction between ghrelin and GLP-1 regulates feeding through vagal afferent system

Waise T. M. Zaved, Toshinai Koji, Tsuchimochi Wakaba and Nakazato Masamitsu

Department of Internal Medicine, University of Miyazaki, Miyazaki, Japan

24 Minigeneを用いたレプチン受容体遺伝子の選択的スプライシング機構解明の試み

登丸琢也、佐藤哲郎、吉野聡、片野明子、石塚高広、石井角保、小澤厚志、渋谷信行、

橋本貢士、山田正信

群馬大学大学院医学系研究科 病態制御内科学

25 Helz2ノックアウトマウスは中枢性レプチン抵抗性を示すにもかかわらずメタボリック症候群抵抗性を示す

吉野聡<sup>1</sup>、佐藤哲郎<sup>1</sup>、登丸琢也<sup>1</sup>、土岐明子<sup>1</sup>、渡邊琢也<sup>1</sup>、中島康代<sup>1</sup>、石井角保<sup>1</sup>、小澤厚志<sup>1</sup>、

渋谷信行<sup>1</sup>、橋本貢士<sup>1</sup>、佐々木努<sup>2</sup>、北村忠弘<sup>2</sup>、山田正信<sup>1</sup>、森昌朋<sup>1,3</sup>

<sup>1</sup>群馬大学大学院医学系研究科 病態制御内科学、

<sup>2</sup>群馬大学生体調節研究所 代謝シグナル解析分野、<sup>3</sup>北関東肥満代謝研究所

26 高脂肪食誘発性耐糖能異常への感受性が異なる2系統のマウスにおける摂食行動の検討

長尾元嗣、浅井明、杉原仁、及川真一

日本医科大学大学院医学研究科 内分泌糖尿病代謝内科学分野

27 高脂肪食負荷による絶食後再摂食量の変化: グルタミン酸神経系およびオピオイド神経系に関する検討

後藤伸子<sup>1,2</sup>、勝浦五郎<sup>2</sup>、越智ゆかり<sup>2</sup>、山下唯<sup>2</sup>、八十田明宏<sup>2</sup>、中尾一和<sup>2,3</sup>

<sup>1</sup>慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科、<sup>2</sup>京都大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科、

<sup>3</sup>京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンター

15：40～16：25 一般演題「生殖・キスペプチン②」

第3会場(4F 大会議室)

座長：有田 順(山梨大学)

## 28 KisspeptinとEstrogenによるGnRH分泌調節とBMP-4の関与

寺坂友博<sup>1,2</sup>、大塚文男<sup>2</sup>、中村絵里<sup>1</sup>、塚本尚子<sup>1</sup>、当真貴志雄<sup>1</sup>、越智可奈子<sup>1</sup>、稲垣兼一<sup>1</sup>、  
槇野博史<sup>1</sup>

<sup>1</sup>岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学、

<sup>2</sup>岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 総合内科学

## 29 発達期の脱メス化およびオス化におけるキスペプチンの役割

中村翔<sup>1</sup>、上野山賀久<sup>2</sup>、池上花奈<sup>2</sup>、富川順子<sup>2</sup>、後藤哲平<sup>2,3</sup>、田村千尋<sup>3,4</sup>、三宝誠<sup>3</sup>、平林真澄<sup>3</sup>、  
前多敬一郎<sup>1</sup>、東村博子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>東大院農生命、<sup>2</sup>名大院生命農、<sup>3</sup>生理研、<sup>4</sup>JST ERATO

## 30 Kiss1 ノックアウト雄ラットにおけるゴナドトロピン分泌不全

上野山賀久<sup>1</sup>、中村翔<sup>2</sup>、池上花奈<sup>1</sup>、美辺詩織<sup>1</sup>、家田菜穂子<sup>1</sup>、富川順子<sup>1</sup>、後藤哲平<sup>1,3</sup>、  
田村千尋<sup>3</sup>、三宝誠<sup>3</sup>、平林真澄<sup>3</sup>、前多敬一郎<sup>2</sup>、東村博子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>名大院生命農、<sup>2</sup>東大院農生命、<sup>3</sup>生理研

## 31 Differential expression of androgen receptor in the preoptic and anterior hypothalamic areas between the adult rats and mice

Mir Rubayet Jahan, Keiji Kokubu, Ryutaro Fujinaga, Akie Yanai, Md. Nabiul Islam,

Chikahisa Matsuo, Kaori Harada and Koh Shinoda

Division of Neuroanatomy, Department of Neuroscience, Yamaguchi University Graduate School of Medicine

## 32 性的二型核形成に関与する性ステロイド作用の領域特異性

金谷萌子<sup>1</sup>、津田夢芽子<sup>2</sup>、佐越祥子<sup>2</sup>、永田知代<sup>2</sup>、森本千尋<sup>2</sup>、栗原良平<sup>1</sup>、加藤茂明<sup>3</sup>、小川園子<sup>2</sup>、  
塚原伸治<sup>1</sup>

<sup>1</sup>埼玉大・院理工、<sup>2</sup>筑波大・院人間総合、<sup>3</sup>相馬中央病院

16:25~17:10 一般演題「生殖・キスペプチン③」

第3会場(4F 大会議室)

座長：汾陽光盛(北里大学)

**33 成熟ラット背側縫線核セロトニンニューロンの発現における性ステロイドホルモンの働きに関する組織化学的研究**

國村有弓<sup>1</sup>、岩田衣世<sup>1</sup>、飯島典生<sup>1</sup>、小林牧人<sup>2</sup>、小澤一史<sup>1</sup>

<sup>1</sup>日本医科大学 大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野、

<sup>2</sup>国際基督教大学 大学院アーツ・サイエンス研究科 生命科学

**34 吸乳刺激で活性化する脳幹の神経細胞とカルシトニン遺伝子関連ペプチド (CGRP) 神経の関係**

山田俊児、笹倉康熙、畑幸一、河田光博

京都府立医科大学・生体構造科学

**35 精巣特異的ヒトエストロゲン受容体 $\alpha$ 変異体の5'-非翻訳領域は翻訳効率を著しく低減する**  
石井寛高、小澤一史

日本医科大学 大学院医学研究科 解剖学・神経生物学分野

**36 A female-dominant sexually dimorphic area located between two male-dominant sexually dimorphic nuclei in mice**

Chaw Kyi Tha Thu<sup>1</sup>, Hiroto Ito<sup>1</sup>, Kota Okoshi<sup>1</sup>, Ken Ichi Matsuda<sup>2</sup>, Mitsuhiro Kawata<sup>2</sup>,  
Shinji Tsukahara<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Division of Life Science, Graduate School of Science and Engineering, Saitama University, Saitama, Japan,

<sup>2</sup>Department of Anatomy and Neurobiology, Kyoto Prefectural University of Medicine Graduate School of Medical Science, Kyoto, Japan

**37 エストロゲン関連受容体ERR $\beta$ はエストロゲン受容体ER $\alpha$ の可動性を減ずることでその転写活性を抑制する**

谷田任司、松田賢一、山田俊児、高浪景子、河田光博

京都府立医科大学 大学院医学研究科 解剖学・生体構造科学



16：34～17：10 一般演題「下垂体前葉系」

第2会場(4F ギャラリー1)

座長：屋代 隆(自治医科大学)

38 下垂体SIRT1による甲状腺刺激ホルモン分泌制御機構

秋枝さやか<sup>1</sup>、瀬藤光利<sup>2</sup>、伊達紫<sup>1</sup>

<sup>1</sup>宮崎大学フロンティア科学実験総合センター、<sup>2</sup>浜松医科大学医学部

39 プロレニン受容体mRNAのラット下垂体前葉における発現と前葉ホルモンとの関係

高橋和広<sup>1</sup>、矢田部恵<sup>4</sup>、藤原研<sup>4</sup>、廣瀬卓男<sup>2</sup>、戸恒和人<sup>2,3</sup>、屋代隆<sup>4</sup>

<sup>1</sup>東北大学大学院 医学系研究科 内分泌応用医科学、

<sup>2</sup>同 薬学研究科 医薬開発構想寄附講座、<sup>3</sup>東北福祉大学 総合福祉学部、

<sup>4</sup>自治医科大学 医学部 解剖学講座(組織学)

40 Hsp90阻害剤による下垂体ACTH産生AtT-20細胞増殖抑制作用についての検討

杉山綾、蔭山和則、秋元加奈子、大門眞

弘前大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科学講座

41 ラット下垂体前葉に存在する樹状細胞様S100タンパク陽性細胞の単離

堀口幸太郎<sup>1,2</sup>、吉田彩舟<sup>3</sup>、藤原研<sup>4</sup>、樋口雅司<sup>2,5</sup>、加藤たか子<sup>2,5</sup>、舘野こずえ<sup>1</sup>、長谷川瑠美<sup>1</sup>、  
瀧上周<sup>1</sup>、大迫俊二<sup>1</sup>、屋代隆<sup>4</sup>、加藤幸雄<sup>2,3,5,6</sup>

<sup>1</sup>杏林大学保健学部、<sup>2</sup>明治大・生殖内分泌研、<sup>3</sup>明治大・院・農研、

<sup>4</sup>自治医科大学医学部解剖学講座(組織学部門)、<sup>5</sup>明治大・研究知財、<sup>6</sup>明治大・農

【10月26日(土)】

10:55~11:40 一般演題「ストレス」

第3会場(4F 大会議室)

座長：尾仲達史(自治医科大学)

42 コルチコトロピン放出因子(CRF)産生ニューロン蛍光可視化マウスの視床下部室傍核(PVN)における蛍光タンパク質局在の検討

Ashraf H. Talukder<sup>1</sup>、布施俊光<sup>1</sup>、内田克哉<sup>1</sup>、杉本直哉<sup>1</sup>、小澤遼<sup>1</sup>、山崎真弥<sup>3</sup>、阿部学<sup>3</sup>、  
夏目里恵<sup>3</sup>、崎村建司<sup>3</sup>、井樋慶一<sup>1,2</sup>

<sup>1</sup>東北大院情報科学・情報生物学、<sup>2</sup>東北大院医学系・神経内分泌学、

<sup>3</sup>新潟大脳研・細胞神経生物学

43 視床下部N39細胞におけるleptinによるCRF及びurocortin 2/3遺伝子の調節と視床下部leptin遺伝子の調節機構についての検討

山形聡、蔭山和則、秋元加奈子、大門眞

弘前大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科学講座

44 高脂肪食負荷ラットでみられるストレス負荷後の海馬と視床下部でのグルココルチコイド受容体発現の発現異常へのmiRNAの関与の解明

根本崇宏、柿沼由彦、芝崎保

日本医科大学大学院医学研究科生体統御科学

45 ラット視床下部室傍核(PVN)における糖質コルチコイド(GC)応答遺伝子のゲノムワイド解析

河野順子<sup>1</sup>、Greti Aguilera<sup>4</sup>、Ying Liu<sup>4</sup>、Sam Clokie<sup>5</sup>、内田克哉<sup>1</sup>、元池郁子<sup>2</sup>、木下賢吾<sup>2</sup>、  
布施俊光<sup>1</sup>、井樋慶一<sup>1,3,4</sup>

<sup>1</sup>東北大院情報科学・情報生物学、<sup>2</sup>東北大院情報科学・生命情報システム科学、

<sup>3</sup>東北大院医学系・神経内分泌学、<sup>4</sup>Section on Endocrine Physiology, NICHD/NIH、

<sup>5</sup>Section of Neuroendocrinology, NICHD/NIH

46 寒冷環境でのTRHの交感神経系刺激作用:TRHノックアウトマウスの解析

小澤厚志、佐藤哲郎、登丸琢也、石井角保、洪沢信行、橋本貢士、岡田秀一、森昌朋、山田正信

群馬大学大学院医学系研究科 病態制御内科学